

【いま浄土とは：】

浄土は仏さまの世界です。その仏さまの世界に生まれることが私たちにとつての救いです。それが真宗の基本的な教えです。浄土とは、安楽国とも安養国ともいわれる阿弥陀如来の国土です。私たちが人間の生きる世界になぞらえて国土として現されています。人間の救いがなぜ国土として、つまり、浄土として現されているのでしょうか。それは私たちの救いが、個人的な私人の心の安らぎにとどまらないからです。もちろん、私たちの心が落ち着き、心が安らかになることは大事なことでしよう。

しかし、人間の救いということになりますと、ただ単に一人の心が安らぐことでは本当の救いになりません。あらゆる人々と共に安らぐことが成り立たないと、私たちは救われないので。なぜなら、人間は、文字どおり、人と人との間柄を生きる存在だからです。私たちは関係を生きています。世界とともにある存在です。他者とともに生きる存在です。

ですから、私たちが日々感じる喜びも悲しみも、それはかかわりの中で起きる感情であります。生活をともにする相手が悲しいといるときに、私ひとりが喜べますか。悲しいはずです。それが人間を生きることの具体的な姿です。

そのような私たちの生きることの現実が、真宗が浄土をもつて人間の救いを明らかにしてきた根本的な理由です。浄土とは阿弥陀経に「俱会一处（くえいつしよ）」（ともに一つ世界に生きる）とあります。あなたも私もともに生きることのできる世界です。それは、決して私たちが普通に考えているような死後の世界としての「あの世」ではありません。また、ユートピアとしての理想郷でもありません。それは、人間を見失ったものに人間を回復させる仏さまの世界なのです。そういう人間回復の大地としての浄土こそが、人を傷つけ踏みつけてやまない私たちの誰もが、何よりもいただかなければならない世界なのです。

（同朋大学特任教授 尾畑 文正）

聞法会
聞法会

6月15日
7月13日

(月) 午後1時～午後3時迄
(月) 午後1時～午後3時迄

お参りをお待ちしております

涅槃堂永代経納骨・墓地・見学受付中

